

新年のご挨拶

一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会
会長 億田 正則



新年おめでとうございます。皆様方におかれましては健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。また、旧年中は弊協会運営に対し多大なご支援、ご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

さて、我が国経済は、昨年はコロナの影響を大きく受けましたが、感染対策の徹底やワクチン接種を促進する中、各種の政策効果や海外経済の改善もあって景気が持ち直していく傾向が見られます。しかしながら、サプライチェーンを通じた影響による下振れリスクに十分注意する必要があります。

建材・住宅設備産業においては、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指し、2030年及び2050年に目指すべき住宅・建築物の姿が政府から示されました。この実現に向けて、ZEH・ZEB基準の水準の省エネ性能の確保や太陽光発電設備等の導入が強力に推進されることとなります。当業界としても、高性能製品の供給を通じた貢献が求められるとともに、高付加価値製品の需要拡大の絶好の機会でもあります。

こうしたことを踏まえ、弊協会としても、業界の新たな課題やニーズに対応した事業展開に取り組んでまいります。具体的には、業界の海外事業展開を支援するため、グリーン建材及びIoT住宅に係る国際標準化事業において、これまで取り組んできたテーマについて成果をあげるとともに、新たなニーズをテーマとして取り上げます。また、住宅の脱炭素化・省エネ化における重点課題であるZEHの普及のため、特に中小工務店への普及施策に取り組むとともに、様々な手法で断熱リフォーム等の普及啓発を図ります。さらに、ウィズコロナ下での住宅や建材への消費者ニーズに応えるため、抗菌製品等品質・環境に優れた製品の認証事業に取り組むとともに、建材・住宅設備のデジタルカタログサイトの「カタラボ」について、利便性向上のための機能の拡充や新規会員獲得に向けた活動に注力してまいります。昨年度から取り組んでいます建築BIMへの対応については、国土交通省の検討に対して業界の意見を提案すべく活動を継続するとともに、今後事業活動のボトルネックとなることが懸念される物流について標準化・効率化に向けた対策の検討に取り組んでまいります。

末尾にあたり、皆様のご健勝とご繁栄を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。